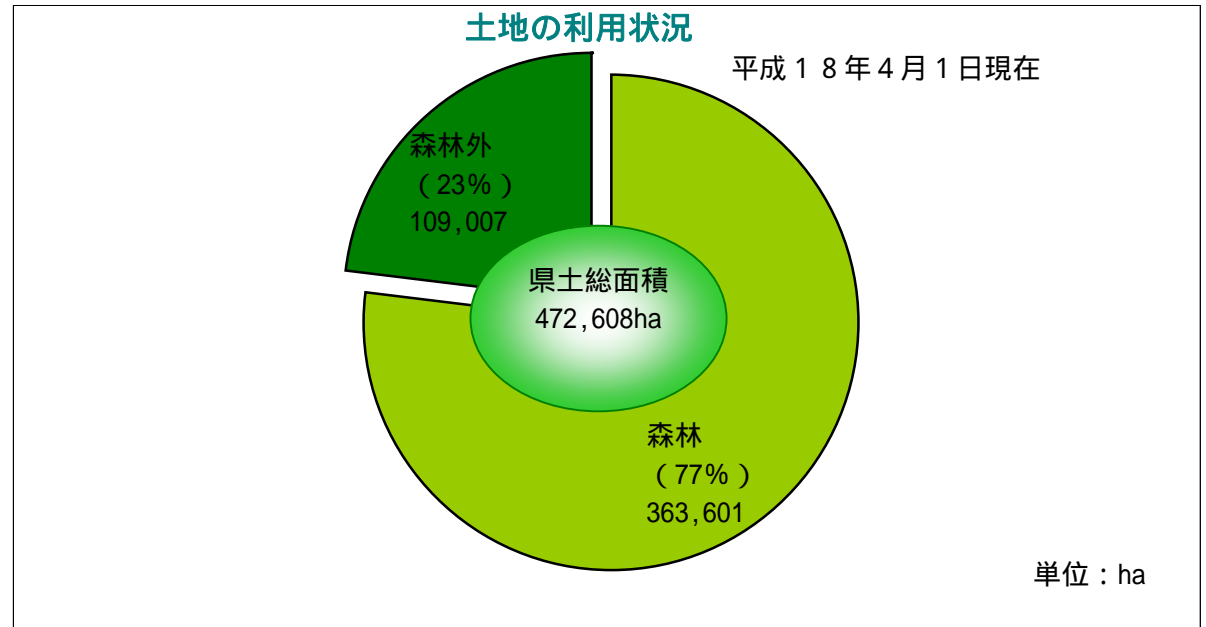


1 森林面積の割合が大きい和歌山県

県土の面積は、全国で30位。

森林面積は、全国で25位。

森林率（県土面積に占める森林面積の割合）は、
全国で6位となっている。



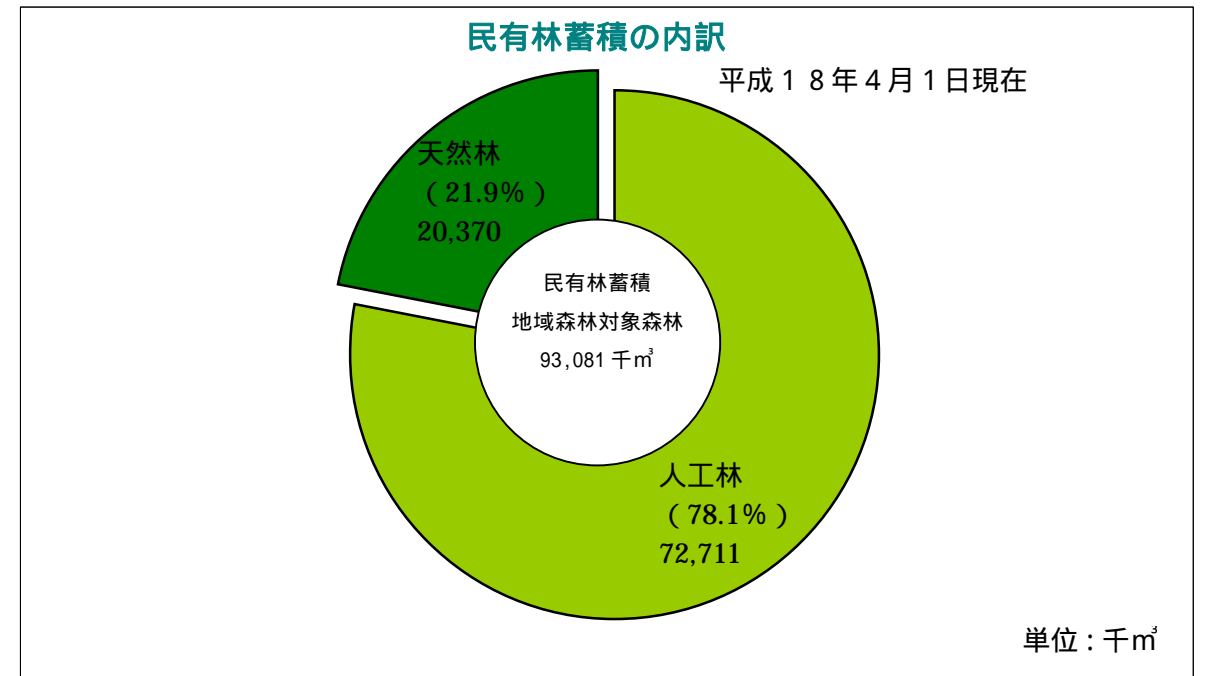
2 豊富な森林資源を有する和歌山県

人工林の蓄積量は、全国で9位。

特に、ヒノキだけでは、全国1位となっている。

また、1ha当たりの人工林としての蓄積量は、
全国で5位となっており、

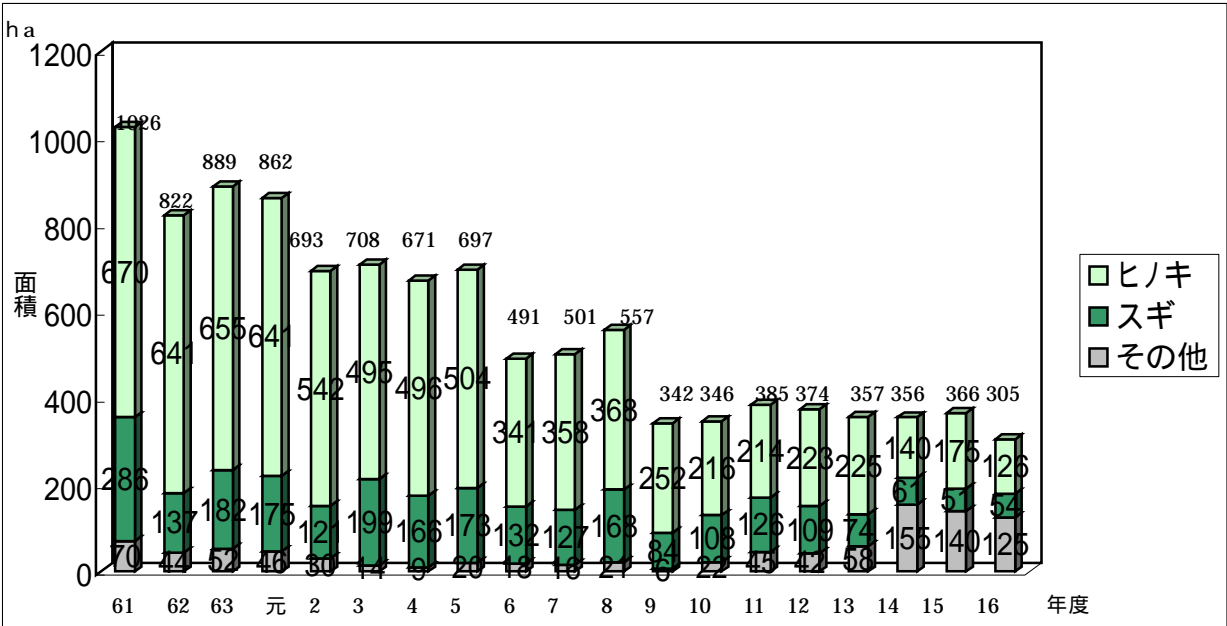
全国的に見て、屈指の森林資源量があるといえる。



樹種別造林面積

3 減少する造林面積

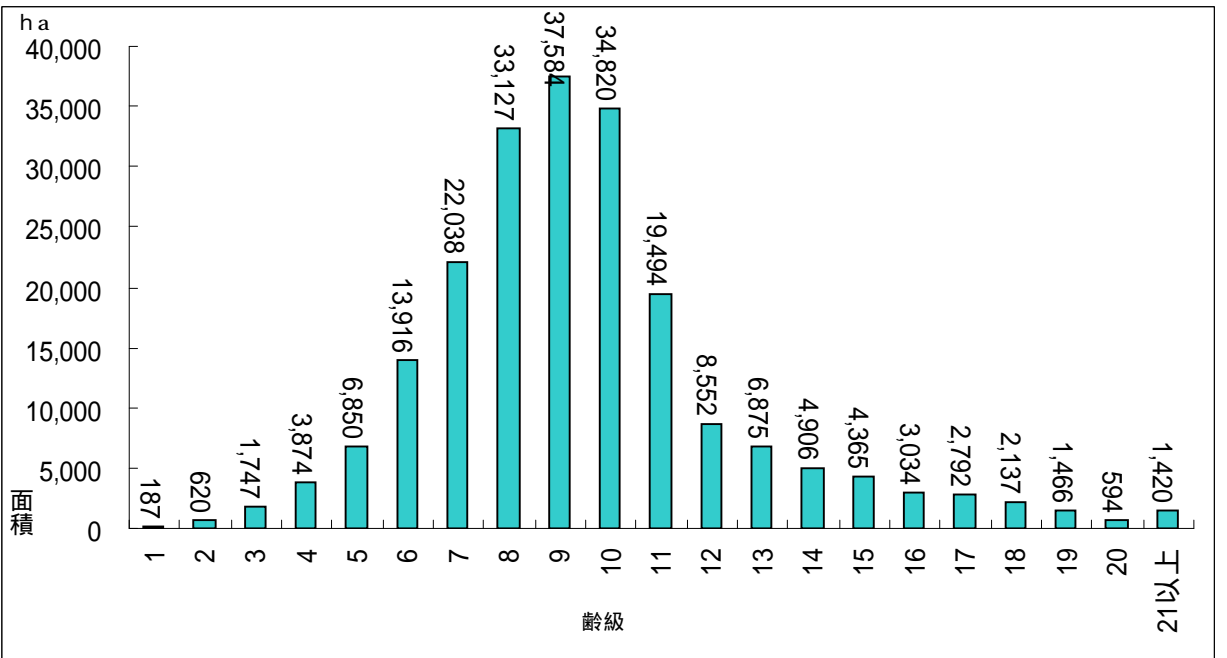
造林（植栽）面積は、
年々減少傾向にあり、
平成16年度では、昭和61年度の
3割程度となっている。



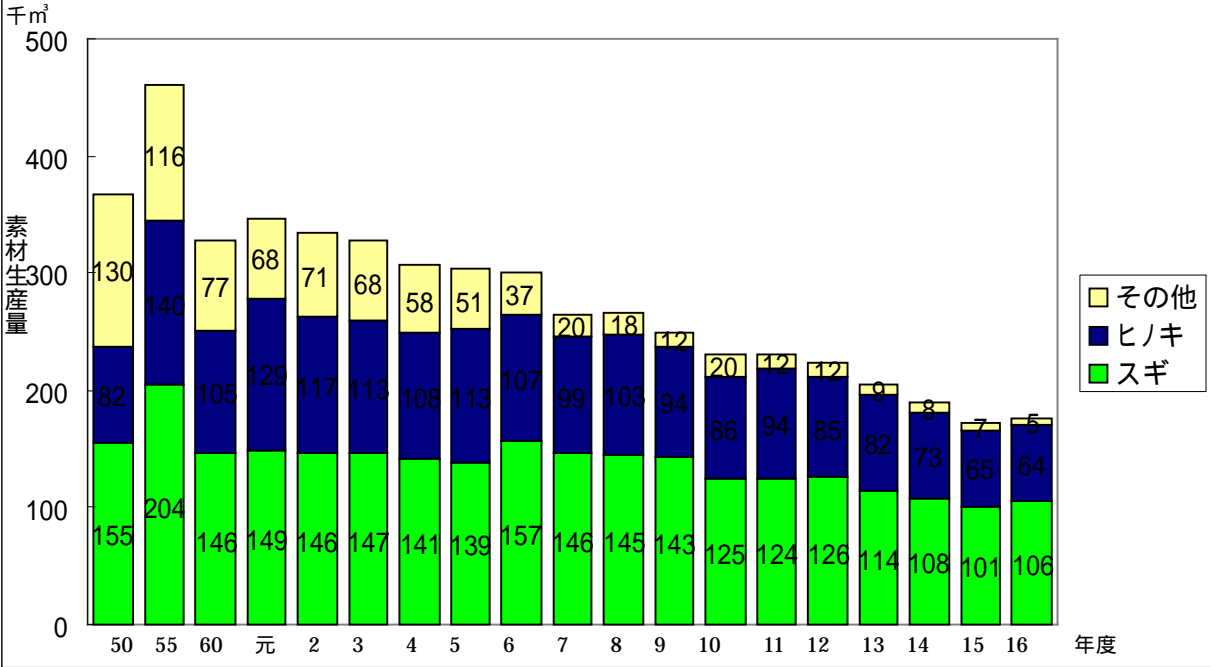
4 偏っている資源構成

8～10 齢級が最も多く、
柱材の適寸には達しているものの、
採算性のよい長伐期（14 齢級以上）
に至るまで間伐を
継続させる必要がある。

民有林人口林齢級構成



スギ・ヒノキ等の素材生産量の推移



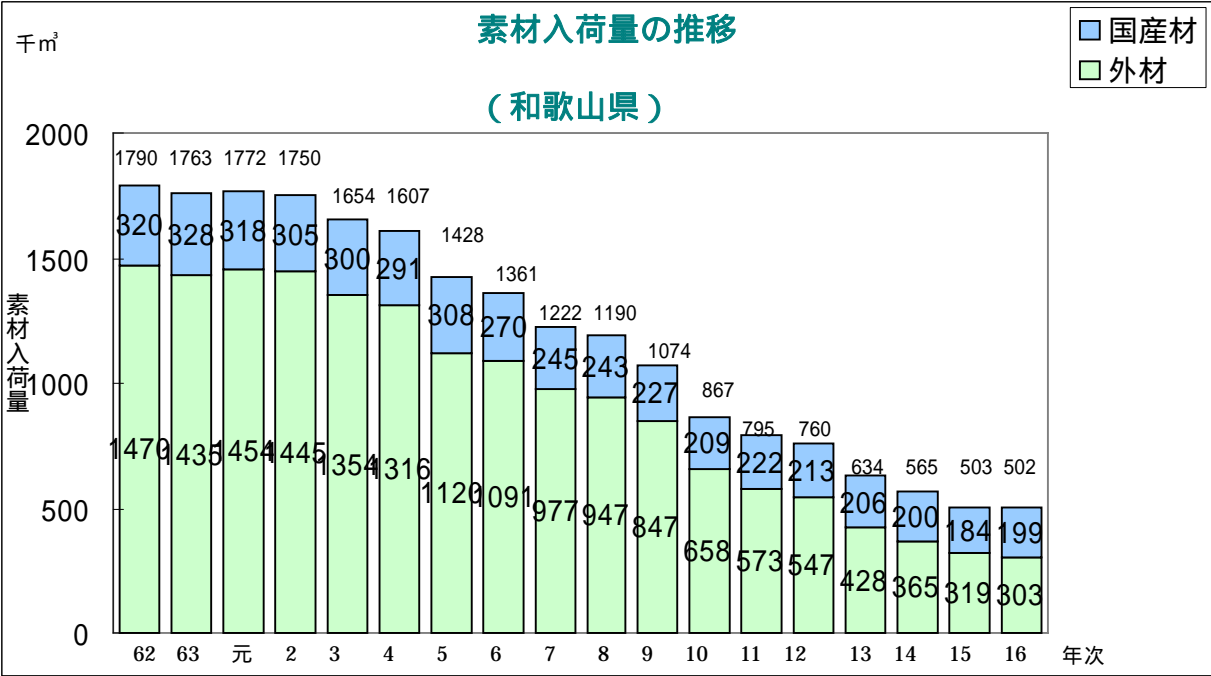
5 減少する伐採量

素材生産量（木材の伐採量）も年々減少傾向にあり、平成16年度では、昭和55年度（ピーク時）の4割弱となっている。

6 減少している素材（原木）の需要量

平成元年と比較すると、平成16年次では、素材の需要量は、3割弱まで減少。

素材入荷量の推移

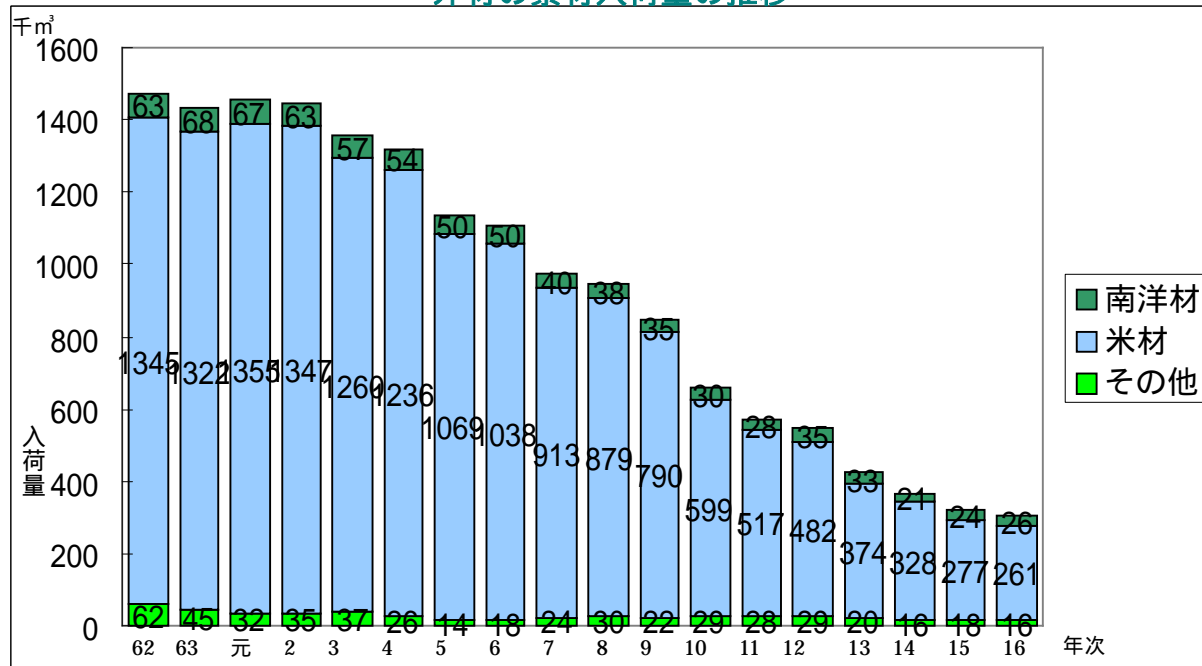


7 減少を続ける外材の素材入荷量

平成16年次の外材素材入荷量は

昭和62年次の2割まで減少している。

外材の素材入荷量の推移



8 減少を続ける製材工場

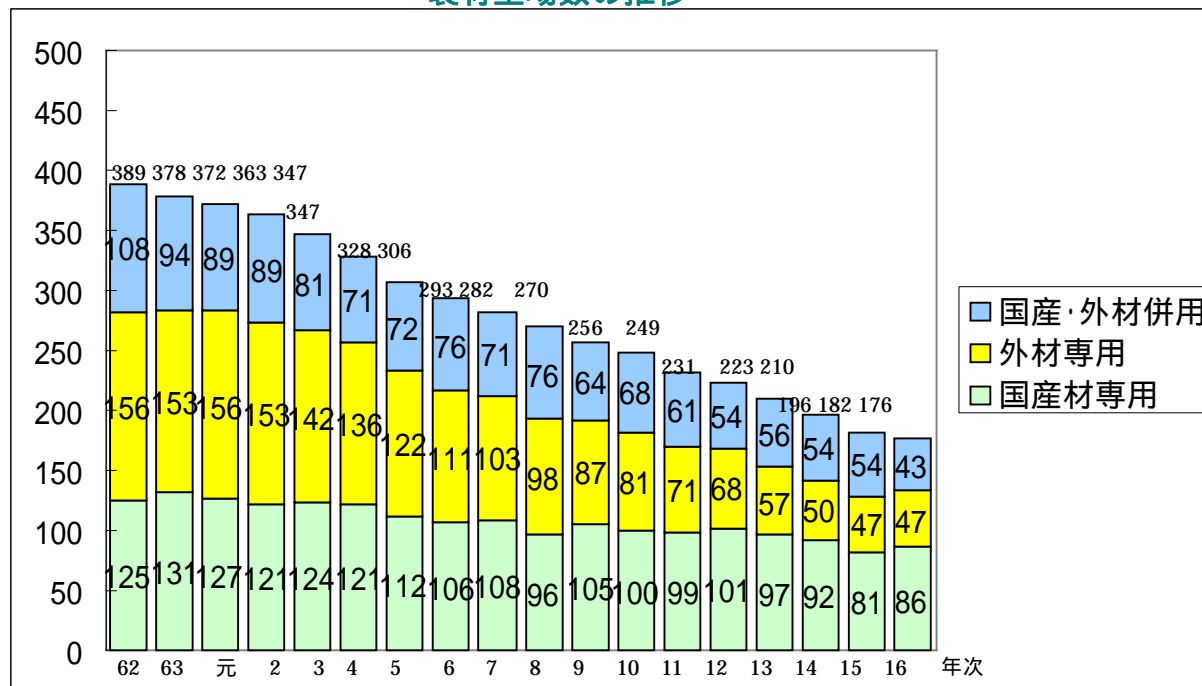
平成16年次の製材工場数は、

昭和62年次の45%まで減少している。

外材専用工場では、

3割まで減少している。

製材工場数の推移



9.和歌山県における木材需給構造（平成16年次）

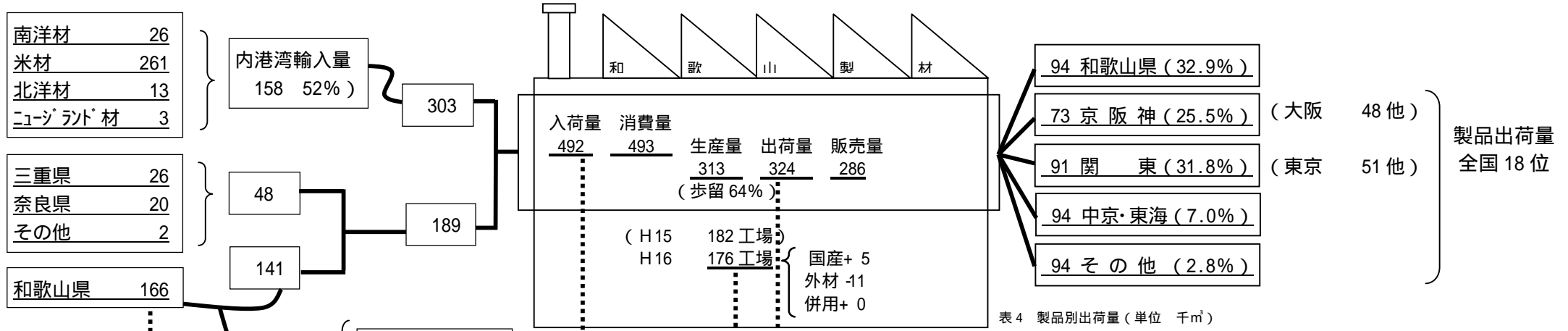


表4 製品別出荷量(単位 千m³)

区分	合計	建築用			土木 建築用	梱包 木箱用	家具用	その他
		板	ひき割	ひき角				
工場数	176	142	140	125	41	31	23	9
出荷量	324	41	96	115	23	30	18	1

工場数は複数の樹種、材種を製材している工場があるため、計と内訳は一致しない。

表5 規程別工場数

区分	合計	7.5~	22.5~	37.5~	75.0~	150.0~	300.0Kw
		22.5Kw	37.5Kw	75.0Kw	150.0Kw	300.0Kw	
工場数	176	7	31	71	38	20	9
従業者数	1,087	17	132	287	310	188	153

表6 形態別工場数(入荷量 千m³)

区分	合計	国産材 専用	国産材・外材併用		外材専用
			国産材	外材	
工場数	176	86	43		47
入荷量	492	176	13	17	286

表7 産地別工場入荷量(単位 千m³)

区分	合計	国産材	南洋材		米材	北洋材	ニューズ ランド材	その他
			内刃材					
工場数	176	129	13	5	85	5	8	3
入荷量	492	189	29	0	261	13	3	0

工場数は複数の樹種、材種を製材している工場があるため、計と内訳は一致しない。

表1 用途別素材生産量(全国25位)(単位 千m³)

合計	製材用	チップ用	その他
175	166	9	0

表2 樹種別素材生産量(単位 千m³)

合計	マツ	スギ	ヒノキ	その他N	L
175	0	106	64	2	3

平成16年木材需給報告書より作成

京阪神とは、滋賀・京都・大阪・奈良・兵庫・三重の各府県

関東とは、東京・埼玉・神奈川・千葉・群馬の各都県

中京・東海とは、長野・岐阜・愛知・静岡の各県

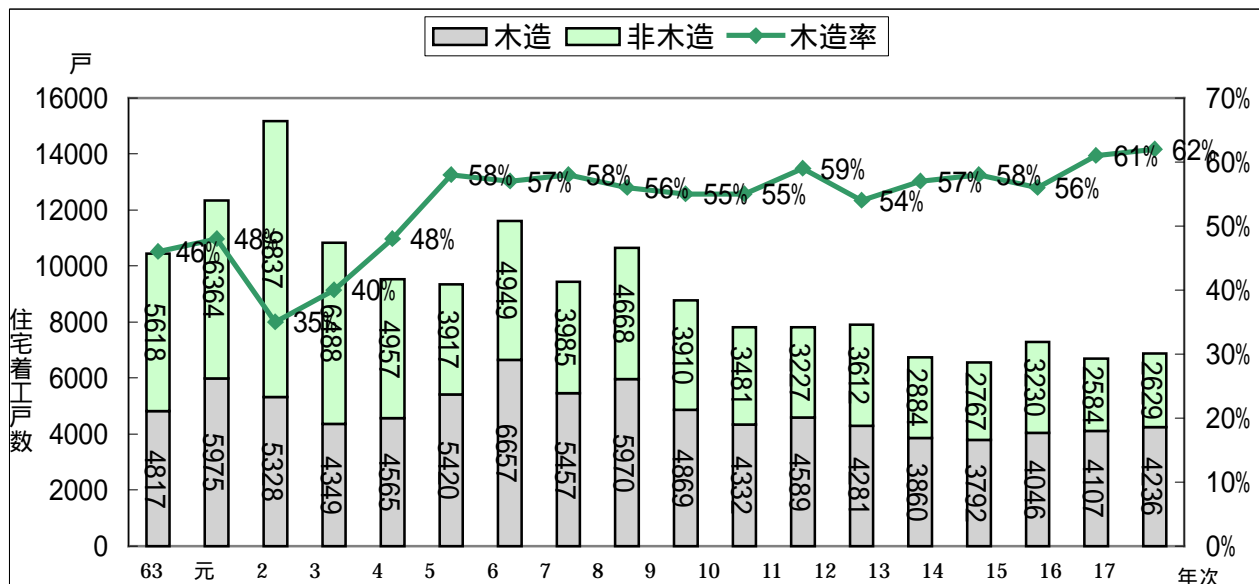
10 期待できない住宅需要

木材最大の需要先は住宅である。

しかしながら、近年の少子化傾向などから

住宅需要の大きな伸びは期待できない。

住宅着工数と木造率の推移



11 下降を続ける木材価格

昭和55年を100とすると、

平成17年度において、

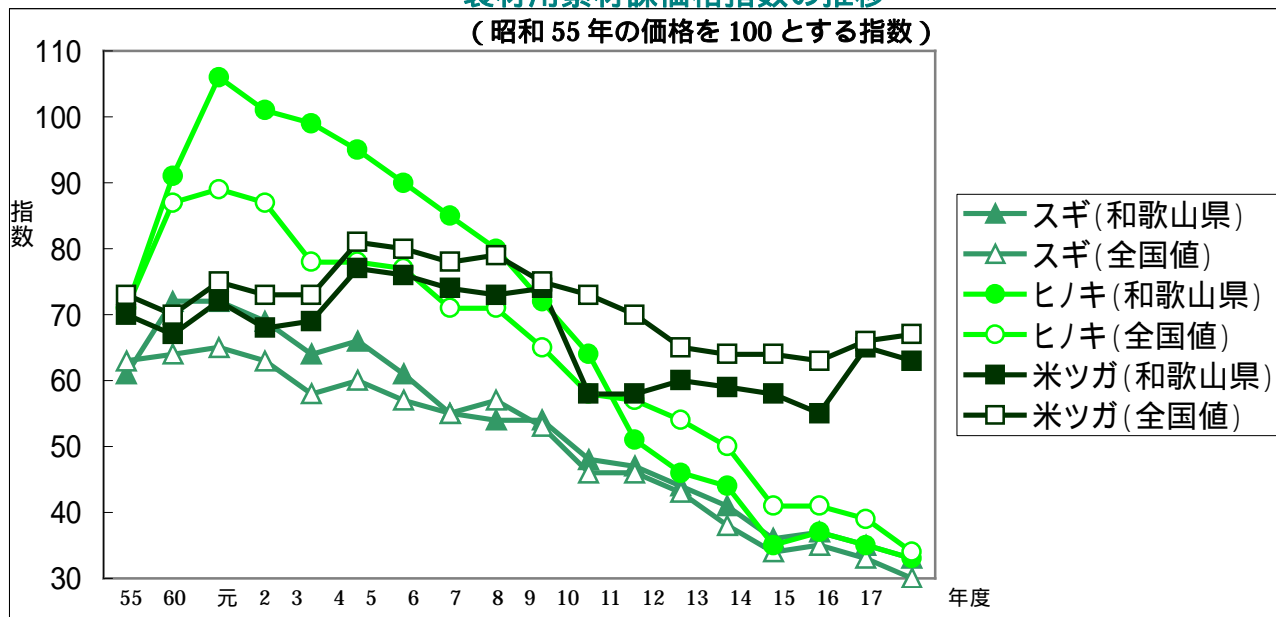
和歌山県の素材価格は、

スギで33、ヒノキで28と、

3割程度となっている。

製材用素材課価格指数の推移

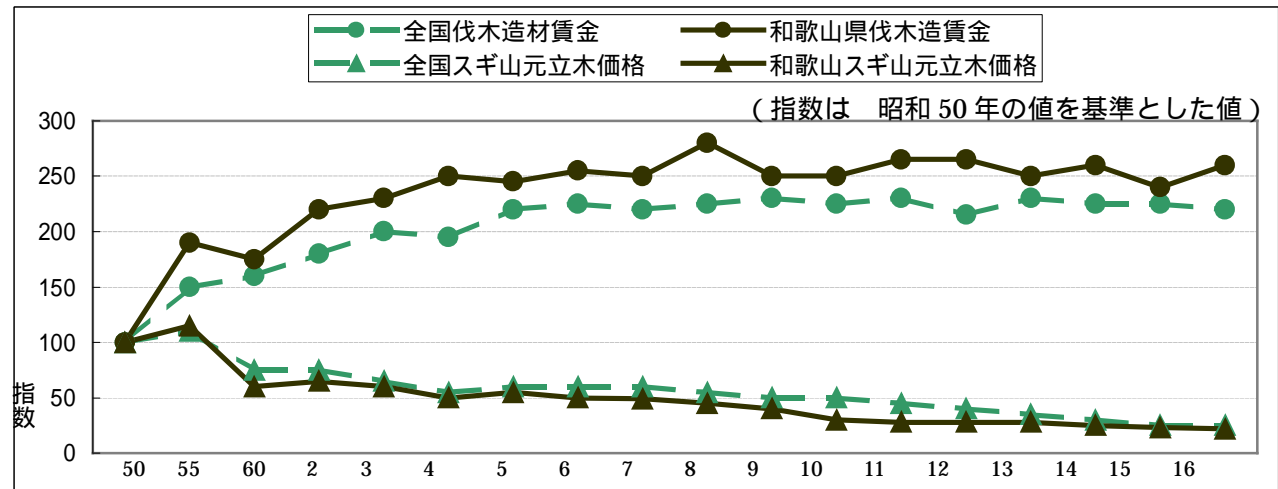
(昭和55年の価格を100とする指数)



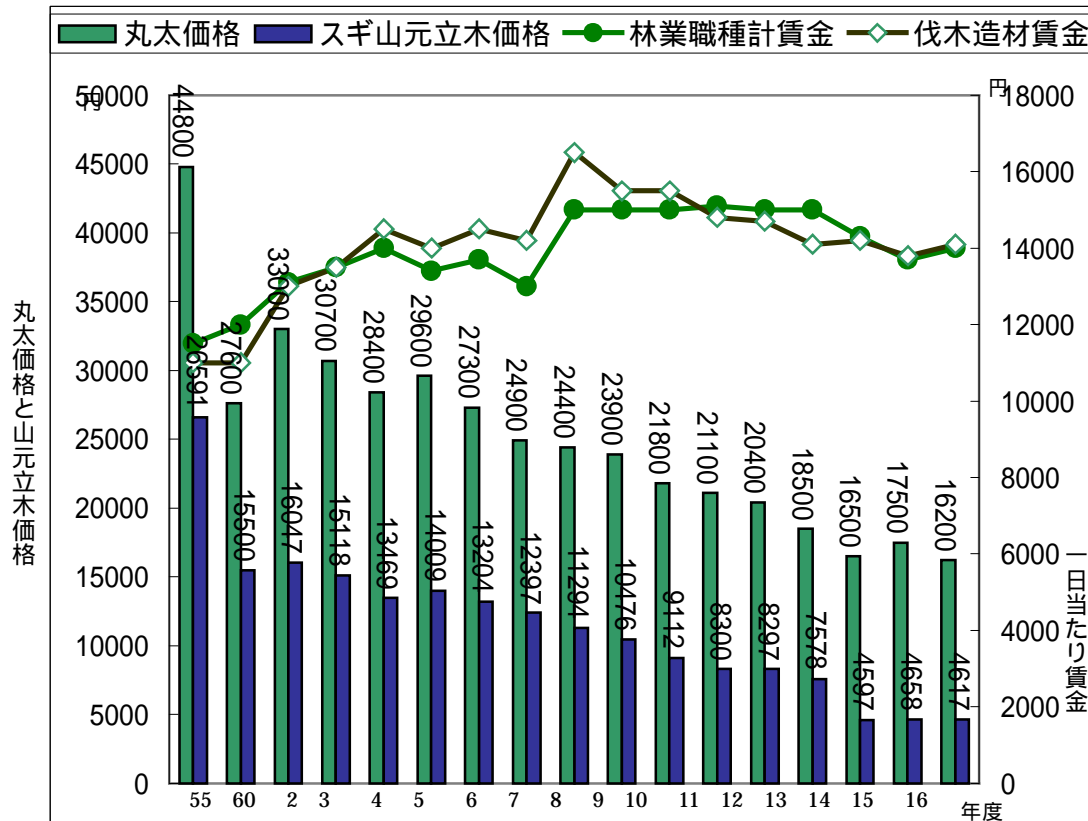
12 収益性が悪化する林業経営

立木価格は、下降しているが、
人件費は上昇しており、
その較差は拡大している。

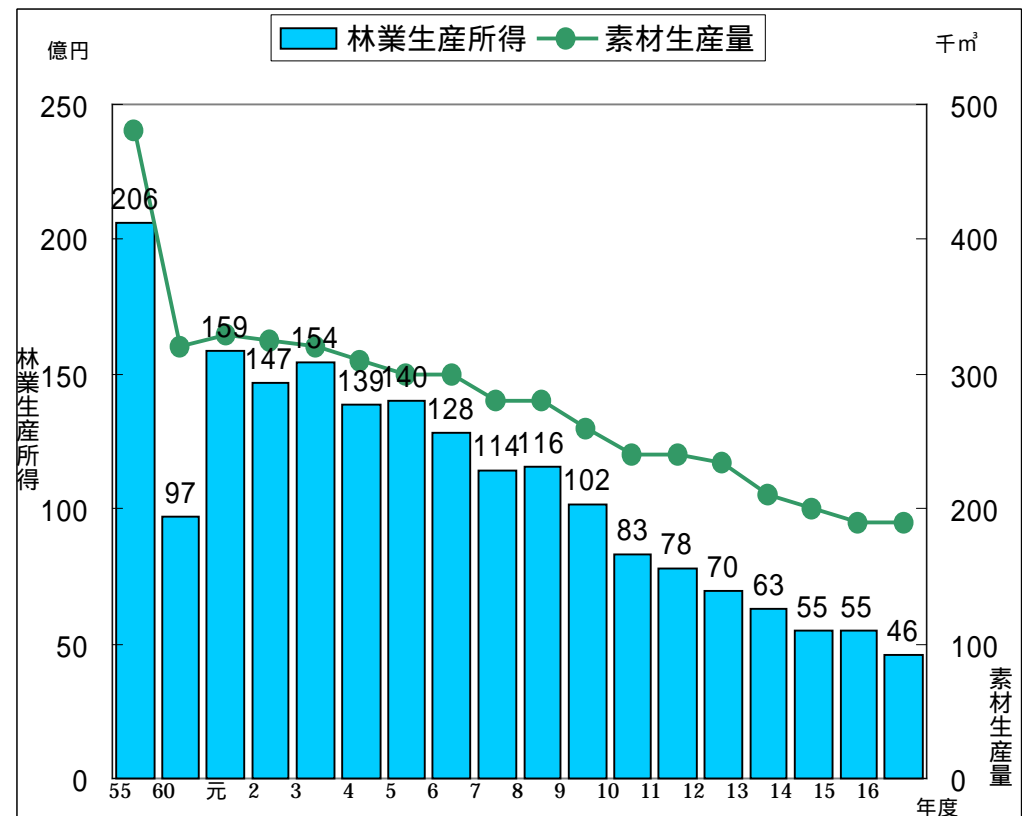
伐木造材作業者賃金と山元立木価格の推移（指数比較）



伐出業労働賃金と素材価格の推移（和歌山県）



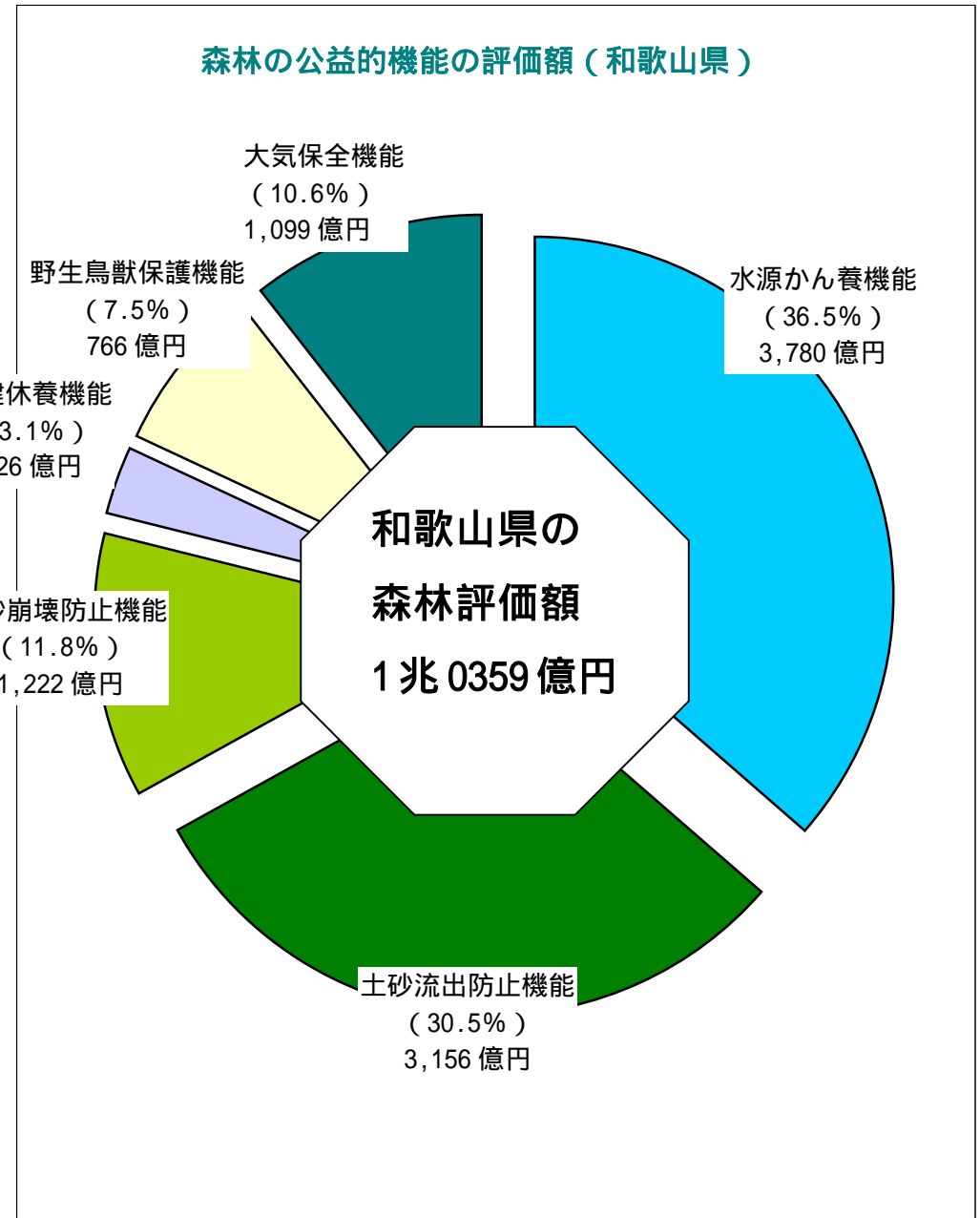
林業生産所得と素材生産量の推移



13 県民の生活基盤を支える森林のはたらき

森林には「木材生産」以外に、
飲み水を蓄える「水源かん養」や
土石流を防ぐ「土砂流出防止」など
暮らしを支えるはたらき（公益的機能）がある。

森林には、「経済」と「環境」という2面性があるが、現在、「林業」という経済活動がうまくいかないため、植栽をはじめ、間伐などの森林への投資がなされなくなった。このままでは森林が荒廃し、県民に不利益を被らせることになる。



14 森林を支える山村地域の状況

和歌山県振興山村・過疎・特定農山村地域図

振興山村の概要

区分	市町村数	総面積 (ha)	総人口 (人)	備考
振興山村	17	295,662	67,293	
全県	30	472,504	1,069,912	
振興/全県		62.6%	6.3%	

(平成12年国勢調査、2005年農林業センサス等)

振興山村の人口動態

区分	昭和35年	昭和50年	昭和60年	平成12年
振興山村	132,401	89,068	78,942	68,577

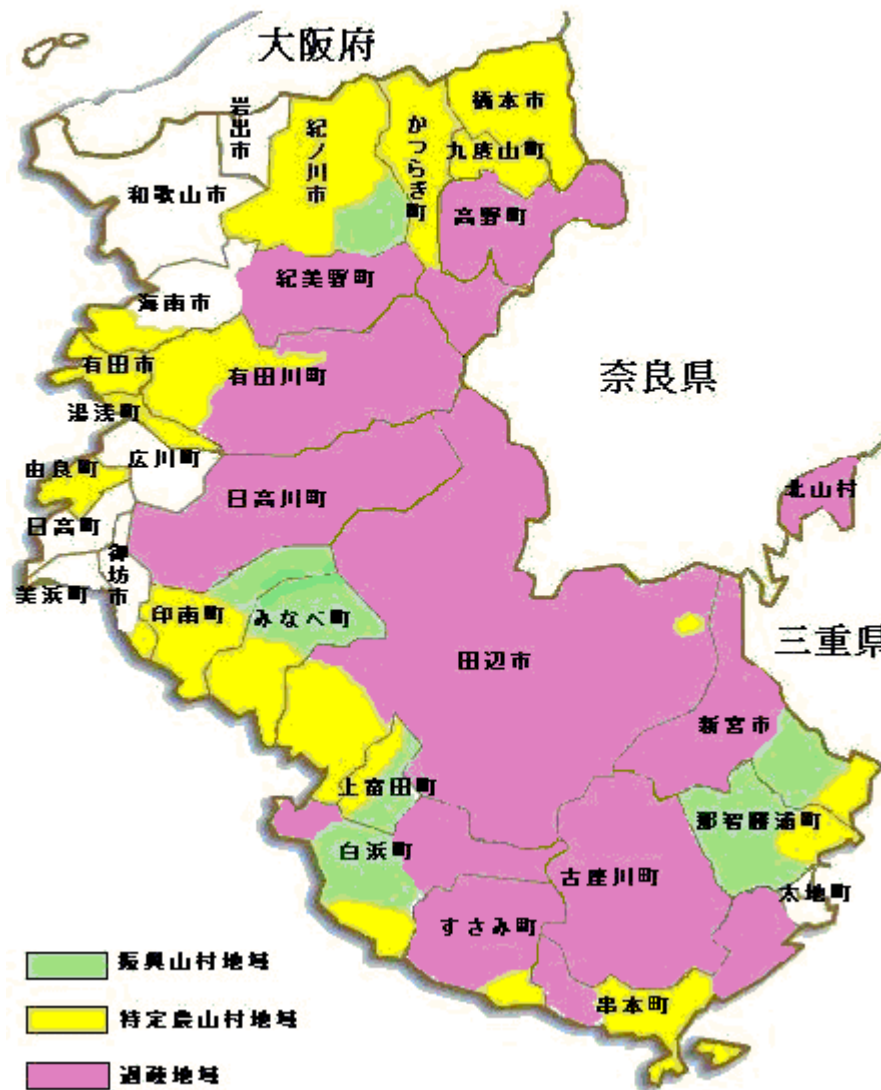
県土の概ね6割に1割弱の

県民が住んでいる。

平成12年までの40年間で、過疎・

山村地域の人口は半減している。

振興山村とは、林野率75%以上かつ人口密度1.16人/ha未満の地域
(山村振興法に基づく規程)



山村地域の年齢構成の推移

15 高齢化が進み、林業の担い手が減少

30歳未満が減少し、
65歳以上が増加している。
林業に従事する後継者はなくなり、
森林の荒廃がさけられなくなる。

